

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23320171

研究課題名(和文)「雄略朝」期前後における地域社会と人制に関する考古学的研究：北部九州を中心に

研究課題名(英文) The archaeological study of the political relationship during the mid-late Kofun Period, Japan: as seen from 'Hito-sei' and the local societies in the Northern Kyushu region

研究代表者

辻田 淳一郎 (TSUJITA, Jun'ichiro)

九州大学・人文科学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：50372751

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、5世紀後半代を中心とした所謂「雄略朝」期とその前後の時期における地域社会と人制に関する実態について、北部九州の遠賀川上流域(嘉穂地域)をフィールドとして考古学的な検討を試みたものである。5世紀後葉～末に築造された約80mの前方後円墳である山の神古墳の出土遺物を主な素材として検討した結果、初葬・追葬の被葬者が対半島交渉などの活動に参画しながら近畿中央政権に仕奉じた北部九州の有力者であること、さらに両者が「雄略朝」期から6世紀代のミヤケ設置に至る古代国家形成過程と深く関わることなどを明らかにした。また金比羅山古墳の調査を通じ、こうした地域社会の基盤形成が3・4世紀代に遡ることを示した。

研究成果の概要(英文)：This scientific research tried to explain the political relationship between the local societies and central authority archaeologically during the mid-late Kofun Period, focusing on the Kaho area, Northern Kyushu region, Japan. The archaeological case study of Yamanokami tumulus, which has 80m keyhole-shaped mound, located in Iizuka City in Kaho area, revealed that in this tumulus, at least two persons were buried, and that they were the local elite who joined the negotiation between the regional groups of Japanese archipelago and several regional groups of Korean peninsula and also served central authority of Kinki region during the late 5th to early 6th centuries. And the measurement and excavation of the Konpirayama tumulus, located in near Iizuka city, showed that the political base of local society was formed during the 3rd to 4th centuries. As the result, this research showed the actual conditions of local societies of state formation in Ancient Japan.

研究分野：日本考古学

キーワード：考古学 古墳時代 倭の五王 雄略朝 人制 継体朝 山の神古墳 同型鏡群

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の課題は、「雄略朝」期前後における地域社会と人制に関する考古学的研究：北部九州を中心に」である。題目に掲げた所謂「雄略朝」は、5世紀代の「倭の五王（讚・珍・濟・興・武）」の時代のうち、最後の倭王・武（ワカタケル大王 / 漢風諡号：雄略天皇）の時代（5世紀後半）を指す。この時代については、特に文献史学の井上光貞氏や岸俊男氏らの研究によって、「雄略朝の画期」として注目されてきた。これは、1978年の埼玉県稲荷山古墳出土鉄剣銘文の発見により、この時代における「治天下大王」といった天下観、「杖刀人」や「奉事典曹人」などの「人制」（ひとせい）と呼ばれる各地の地域集団から中央政権への奉仕・上蕃関係の存在が明らかになったことも大きく影響している。またその歴史的背景として、中国南北朝・朝鮮半島諸国の競合を中心とした東アジアの国際的緊張関係と、その中で行われた倭の五王による中国南朝・宋への遣使、及び宋からの官爵の授与などが挙げられる。

(2) 以上のように、5世紀後半の「雄略朝」の時代が日本における古代国家形成過程において重要な画期となることが認識されてきた。この時代の実像を考える上では、文字資料のみならず、考古学的資料にもとづく研究成果と統合することが重要であり、そうした方向性を模索しつつ研究を開始した。

2. 研究の目的

(1) 考古学の分野では、日本列島の国家形成を考える際、大きく3世紀中葉から6世紀代の古墳時代を国家成立前段階の部族連合と捉える説や初期国家と捉える説などが存在し、現在も評価が分かれている。この点で、上述のように、5～6世紀代の東アジア的国際関係とその中で列島社会の政治秩序の実像について、文献史学・考古学双方の成果を統合していくことは列島の古代国家形成研究において大きな課題といえる。本研究は、上述のような問題意識の元、「雄略朝」期とその前後の時期における地域社会と人制に関する実態について、北部九州地域をフィールドとして考古学的な検討を試みたものである。

(2) 上記のような問題を踏まえ、特に次の2点を課題として設定した。

「雄略朝」期前後における、府官制的秩序の導入から「人制」の展開とその具体相、そして中国南朝や半島諸地域との対外交流の諸相の考古学的検討

「雄略朝」期以降、特に「継体朝」期と磐井の乱の前後の時期における、5世紀代の政治秩序の再編とミヤケ設置前後の時期における地域社会の具体相。

3. 研究の方法

(1) 「雄略朝」期とその前後における地域間関係の実態を考える上で問題となるのが、各地域における古墳時代遺跡の様相である。上述のような問題意識から、いわば文献史料にもとづくイメージと、考古資料にもとづく上位層同士の関係や中央政権と各地域社会との関係についてのイメージとの比較検討が、「雄略朝」期とその前後の歴史的意義を考える上では極めて重要な意義を持つと考える。さらにこの問題を広域的な中心-周辺関係の変質過程として考える際には、中心地=中央政権からの視点のみならず、周辺地域としての各地域社会がどのような役割を果たしたのかという視点が有効と考えられる。この地域社会の側に軸足を置いた地域間関係の研究という点が、本研究が採る立場である。

(2) 以上のような問題意識の下で上記の2つの課題を検討するにあたり、本研究では北部九州地域、特に遠賀川上流域の嘉穂地域を対象とする。その上で、以下に挙げる具体的な2つの遺跡を軸として調査・研究を行い、それらを北部九州地域の古墳時代社会の歴史的脈絡に還元してその意義を追求し、かつ他地域と比較することにより、本地域の5・6世紀における東アジア史および列島史の中での位置づけを考える、という方法を採用した。具体的な検討対象遺跡は、福岡県飯塚市に所在する山の神古墳（5世紀後葉～末築造）と同桂川町に所在する金比羅山古墳（3～4世紀代築造）という2基の80m級の前方後円墳である。以上の2基の前方後円墳は、いずれも嘉穂地域および遠賀川流域では桂川町寿命王塚古墳に次いで最大級の古墳でありながら、調査が古く未報告で実態が不明であった。これらの古墳について、地域社会の歴史的脈絡に還元した上で各地の同時代資料と比較することによって、本地域が持つ歴史的な特質を明らかにするとともに、これらの具体的な未報告資料を対象として検討を行うことにより、従来明らかでなかった新たな様相が確認されることが期待された。特に山の神古墳は非常に多量の副葬品が出土していることから、多くの研究者の参加を得て、共同研究という形で調査・研究を行った。

4. 研究成果

(1) 研究成果は、大きく3つに分けることができる。まず第1点目が、山の神古墳の築造・初葬の時期が「雄略朝」期の後半期にあたる5世紀後葉～末のTK47型式期前後であることが確認できたことである。山の神古墳は1933年の石室・遺物の発見以来、断片的な内容しか紹介されておらず、遺跡としての全体像が不明であったが、今回の共同研究の結果、全長約80mの前方後円墳で北部九州型初期横穴式石室を有する、この時期の北部九

州で最大級の前方後円墳であることが確認された。また山の神古墳出土の副葬品は、大きく TK47 型式期の初葬段階の副葬品と、TK10 型式前後の追葬段階の副葬品の 2 群に区分されるが、副葬品の大半は初葬の TK47 型式期に属するものであり、銅鏡、衝角付冑・小札甲などの武器・武具類や盛矢具、農工具、金銅装の馬具 A セットなどをはじめとした豊富な副葬品が初葬の被葬者に伴って副葬された可能性が高いことが判明した。この時期、遠賀川流域では渡来系の舶載文物を副葬した古墳や横穴墓の存在が知られ、山の神古墳の初葬被葬者は、それらの被葬者の上位に位置づけられる在地集団の代表者で、対朝鮮半島交渉に参画しながら、近畿中央政権に仕えた北部九州の有力者であったことが具体的に明らかとなった。これにより、「雄略朝」期における多元的な対外交渉のあり方、また地域社会と中央政権との関係の実態を考える上での基礎資料を示すことができた。刀剣類には銘文資料が含まれていないことから、初葬の被葬者が「人制」にどのように関わっているかという点については今後の課題である。「人制」関連資料が出土する埼玉県稲荷山古墳や熊本県江田船山古墳の内容との共通性もみられ、全国的な比較検討が課題である。

(2) 成果の第 2 点目は、山の神古墳の追葬の被葬者の埋葬年代が、6 世紀前葉～中葉 (TK10 型式前後) と想定され、「雄略朝」後の「継体朝」期から磐井の乱、そして嘉穂地域において穂波屯倉・鎌屯倉が設置された時代を生きた被葬者であることが判明した点である。追葬の被葬者に確実に伴う副葬品として金銅装馬具の B セットが挙げられ、近在する王塚古墳の被葬者に匹敵する内容の副葬品を持ち、かつ独立した古墳を築造しなかった古墳の被葬者として、王塚古墳の被葬者との関係があらためて注目されることとなった。具体的には、山の神古墳の追葬の被葬者は、王塚古墳の被葬者とともに対半島交渉に参画しつつ、「継体朝」以降の中央政権に奉仕するという形で、相互に密接な関係にあったことが想定された。両古墳に直接関わる可能性が高いのは穂波屯倉の設置であるが、ミヤケ設置によって在地社会の編成や秩序がどのような影響を受けたのかといった点についても今後の課題である。

(3) 成果の第 3 点目として、金比羅山古墳の調査成果が挙げられる。従来、嘉穂地域においては 5 世紀代の山の神古墳に先行する 3～4 世紀代の古墳がいくつか知られていたが、本研究において金比羅山古墳の墳丘形態・規模の確認のための測量・発掘調査を実施した結果、全長 81m の前方後円墳であり、3～4 世紀の古墳時代前期に遡る時期の築造であることが判明した。これにより、山の神古墳の築造に遡る 3～4 世紀代から 80m 級の前方後

円墳を築造する地域的基盤が形成されていたことが確認され、「雄略朝」期以降の嘉穂地域の展開を考える上での基礎的資料が得られた。この点についても、桂川町周辺では未調査・未報告の資料が多数存在しており、引き続き調査を進めていく必要がある。

(4) 以上のように、科学研究費の共同研究を通じて、北部九州の遠賀川上流域 (嘉穂地域) の地域集団が、3・4 世紀代の古墳時代前期から、5 世紀後半～6 世紀にかけての「雄略朝」期から「継体朝」期前後の時代に至るまで、どのような形で広域的な政治秩序や対半島交渉などに参画したかといったことが具体的に明らかとなった。特に山の神古墳の初葬・追葬の被葬者が示すのは、独自に対外交渉のルートを持つ北部九州の有力者が近畿中央政権との政治的つながりを持ちつつ仕奉した段階から、磐井の乱・ミヤケの設置を経て明確に中央政権の間接支配へと組み込まれていく変遷の過程であり、この点において、地域社会の側からみた古代国家形成の画期とその実態を読み取ることができる。またこの間、倭の五王の時代における対南朝遣使に関わる遺物の可能性が高い同型鏡群の検討を進めることができた点や、本研究の成果も含めた古墳時代研究の成果の国際的な情報発信などを行う機会を得たことも重要な成果であった。共同研究に御参加いただいた方々からは、特に山の神古墳出土遺物を素材として、「雄略朝」期前後の社会像をめぐる諸問題について御検討いただき、最終的にこの共同研究の成果を以下の報告書として刊行した。この報告書については、本共同研究の成果を広く共有していただくことを目的として、九州大学図書館リポジトリにて公開している。

・辻田 淳一郎 (編), 九州大学大学院人文科学研究所考古学研究室, 山の神古墳の研究「雄略朝」期前後における地域社会と人制に関する考古学的研究: 北部九州を中心に, 2015, 402

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 10 件)
辻田 淳一郎, 同型鏡群の鈕孔製作技術 画文帯環状乳神獸鏡を中心に, 史淵, 査読なし, 152, 2015, pp.31-50

辻田 淳一郎, 世界の中の古墳時代研究 比較考古学の観点から, 考古学研究, 査読あり, 61-3, 2014, pp.15-28

辻田 淳一郎, 建武五年銘画文帯神獸鏡の文様と製作技術, 東アジア古文化論叢 1, 査読なし, 2014, pp.177-196

辻田 淳一郎, 古墳時代の北部九州, HUMAN, 査読なし, 4, 2013, pp.61-68

桃崎 祐輔,九州出土子持勾玉研究入門,福岡大学考古学論集,査読なし,2,2013,pp.87-136

重藤 輝行,古墳時代の4本主柱竪穴住居と渡来人,第37回韓国考古学全国大会発表資料集,査読なし,2013,pp.292-312

辻田 淳一郎,古墳時代中期における同型鏡群の系譜と製作技術,史淵,査読なし,150,2013,pp.55-93

辻田 淳一郎,倭製鏡と中国鏡 モデルとその選択,考古学ジャーナル,査読なし,635,2012,pp.15-19

橋本 達也,東アジアにおける眉庇付冑の系譜 マ口塚古墳出土眉庇付冑を中心として,国立歴史民俗博物館研究報告,査読あり,173,2012,pp.411-434

辻田 淳一郎・主税 英徳,福岡市西区・小戸古墳群の測量調査,市史研究ふくおか,査読なし,7,2012,pp.1-9

〔学会発表〕(計17件)

辻田 淳一郎,鏡からみた宗像・沖ノ島,第5回「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産シンポジウム沖ノ島と海を越えた古代の交流,2015年2月14日,九州国立博物館(福岡県太宰府市)

辻田 淳一郎,日本・北部九州における古墳時代中期の埋葬施設と銅鏡,古墳を通してみた湖南地域の対外交渉と年代観,第1回古代古墳国際学術大会,2014年11月6日,羅州市(大韓民国)

辻田 淳一郎,古墳時代中・後期における同型鏡群の授受とその意義,山の神古墳と「雄略朝」期をめぐる諸問題,2014年7月20日,九州大学(福岡県福岡市)

桃崎 祐輔,山の神古墳出土馬具の検討,山の神古墳と「雄略朝」期をめぐる諸問題,2014年7月20日,九州大学(福岡県福岡市)

重藤 輝行,山の神古墳横穴式石室の系譜,山の神古墳と「雄略朝」期をめぐる諸問題,2014年7月19日,九州大学(福岡県福岡市)

橋本 達也,古墳時代中期甲冑における朝鮮半島系要素の導入,山の神古墳と「雄略朝」期をめぐる諸問題,2014年7月20日,九州大学(福岡県福岡市)

辻田 淳一郎,鏡からみた古墳時代の地域間関係とその変遷 九州出土資料を中心として,九州前方後円墳研究会大分大会・古墳時代の地域間関係2,2014年6月21日,別府大学(大分県別府市)

辻田 淳一郎,世界の中での古墳時代研究,考古学研究階第60回総会・研究集会,2014年4月20日,岡山大学(岡山県岡山市)

辻田 淳一郎,建武五年銘画文帯神獸鏡の文様と製作技術,九州史学会考古学部会,2013年12月8日,九州大学(福岡県福岡市)

重藤 輝行,古墳時代の4本主柱竪穴住居と渡来人,第37回韓国考古学全国大会,2013年11月1日,慶州市(大韓民国)

辻田 淳一郎,雄略朝から磐井の乱に至る

諸変動,日本考古学協会2012年度福岡大会,2012年10月10日,西南学院大学(福岡県福岡市)

辻田 淳一郎,古墳時代中期同型鏡群の製作技術 鈕孔形態の観察から,日本中国考古学会九州部会第60回例会,2012年7月28日,九州大学(福岡県福岡市)

辻田 淳一郎,九州出土の中国鏡と対外交渉 同型鏡群を中心に,第15回九州前方後円墳研究会北九州大会 沖ノ島祭祀と九州諸勢力の対外交渉,2012年6月16日,いのちの旅博物館(福岡県北九州市)

TSUJITA,Jun'ichiro The control and monopoly of the technology of the prestige goods production in the process of secondary state formation: as seen from the case of the Kofun Period, Japan. Human population and social organization: technology transfer. The 5th World Conference of the Society of East Asian Archaeology, 2012.6.9. Kyushu University/Seinan Gakuin University, Fukuoka City.

TSUJITA,Jun'ichiro Kofun Period studies in Japanese Archaeology: from the perspective of the ancient state formation. Opening Symposium: Advances and Challenges in Japanese Archaeology. The 5th World Conference of the Society of East Asian Archaeology, 2012.6.6. Kyushu University/Seinan Gakuin University, Fukuoka City.

辻田 淳一郎,倭の五王の時代と鏡,平成23年度九州史学会大会・シンポジウム「倭の五王は何を学んだか」,2011年12月10日,九州大学(福岡県福岡市)

辻田 淳一郎,九州における竪穴系埋葬施設の展開,第14回九州前方後円墳研究会宮崎大会 九州における古墳埋葬施設の多様性,2011年6月18日,ホテルプラザ宮崎(宮崎県宮崎市)

〔図書〕(計5件)

辻田 淳一郎 他,九州大学大学院人文科学研究科考古学研究室,山の神古墳の研究 「雄略朝」期前後における地域社会と人制に関する考古学的研究:北部九州を中心に,2015,402

辻田 淳一郎 他,九州大学大学院人文科学研究科考古学研究室,山の神古墳と「雄略朝」期をめぐる諸問題 研究発表資料集,2014,88

宮本 一夫 編,新修福岡市史考古特別編 自然と歴史からみた福岡の歴史,福岡市,2013(辻田 淳一郎,古墳時代の集落と那津官家,pp.200-217)

一瀬 和夫 他編,古墳時代の考古学 7 内外の交流と時代の潮流,同成社,2012(辻田 淳一郎,古墳文化の多元性と一元性,pp.44-56)

土生田 純之・亀田 修一 編,古墳時代研究の現状と課題(下),同成社,2012(辻

田 淳一郎, 生産と流通 鏡, pp.151-174)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

成果報告書のPDFファイルを九州大学図書館
リポジトリにて公開:

<http://hdl.handle.net/2324/1515740>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

辻田 淳一郎 (TSUJITA, Jun' ichiro)

九州大学・大学院人文科学研究院・准教授
研究者番号: 50372751

(2) 研究分担者

宮本 一夫 (MIYAMOTO, Kazuo)

九州大学・大学院人文科学研究院・教授
研究者番号: 60174207

(3) 連携研究者

桃崎 祐輔 (MOMOSAKI, Yusuke)

福岡大学・人文学部・教授
研究者番号: 60323218

重藤 輝行 (SHIGEFUJI, Teruyuki)

佐賀大学・文化教育学部・教授
研究者番号: 50509792

橋本 達也 (HASHIMOTO, Tatsuya)

鹿児島大学・総合研究博物館・准教授
研究者番号: 20274269

(4) 研究協力者

谷澤 亜里 (TANIZAWA, Ari)

九州大学・附属図書館付設教材開発センタ

中井 歩 (NAKAI, Ayumi)

九州大学・大学院比較社会文化学府

的野 文香 (MATONO, Ayaka)

九州大学・事務局

松崎 友理 (MATSUZAKI, Yuri)

九州歴史資料館

西 幸子 (NISHI, Yukiko)

福岡大学・大学院人文科学研究科

松浦 宇哲 (MATSUURA, Takaaki)

嘉麻市教育委員会

岸本 圭 (KISHIMOTO, Kei)

九州国立博物館

加藤 和歳 (KATOU, Kazutoshi)

九州歴史資料館

小林 啓 (KOBAYASHI, Akira)

九州歴史資料館

菅 浩伸 (KAN, Hironobu)

九州大学・大学院比較社会文化研究院・教授

嶋田 光一 (SHIMADA, Kouichi)

飯塚市歴史資料館

岩橋 由季 (IWAHASHI, Yuki)

九州大学・大学院比較社会文化学府